



JCNA 通信 第22号

発行日 2017年8月20日
発行人 西村晶子
編集人 山口郁乃
創立 1957(S32)年
会員数 250名

2016年度テーマ

マリアのように、いつくしみ深いイエスに自らをゆだねる
「この人が何かいいつけたら、そのとおりにしてください」(ヨハネ2・5)

会長挨拶

日本カトリック看護協会 会長 西村晶子

主の平和

JCNAは8月が年度末です。2016年度もこの通信発行をもって年度が終了します。私も会長就任から3年が過ぎようとしております。あれもしたいこれもしたいと思っても、なかなかうまくいきませんでした。過去の出来事を振り返りながら、この1年間を振り返って、今後の希望を述べたいと思います。

2017年10月27・28日は、第58回日本カトリック看護協会全国大会が御殿場で開催されます。何よりも楽しみにしております。それは皆様と一緒にJCNAの創立者、初代会長井深八重さんが私たちに伝えたかったことを学び、分かち合い今後の活動に生かしたいと思うからです。大会準備担当の横浜支部の皆様には心から感謝申し上げます。会員の皆様には、御殿場でお会いするのを楽しみにしております。

本部は、役員が今も4名です。それを補う意味でも、本部役員代行制を取り入れてきました。現在3名の方がおります。1、HIV/AIDS担当(河野小夜子)、2、パストラルケア担当(石岡ヒロ子)、3、平和への希求担当(山口郁乃)です。いずれも看護者にとって大切な活動です。研修会等のお知らせもいただき少しずつですが、活動の在り方もはっきりしてきたと思っております。会員の皆様への具体的活動内容の伝達も工夫し、関心が持てるよう努力しなければと考えております。今後は、本部役員代行に合わせ、各支部にも、この3つの活動を専任して担当する方を選出し、支部間の連携が図られたら、活動も発展するものと期待しております。いずれの活動もJCNAだけでは成り立ちません、カトリック関係の多くの個人・団体・組織に支えられて活動していきたいと思っております。

JCNAが連携して活動している団体は、日本カトリック医師会(JCMA)・日本カトリック医療施設協会(JCMIA)です。3団体が協力して取り組むことで大きな成果を上げていると思っております。今後は日本カトリック看護大学連盟も加わって連携していきたいと希望しております。2016年度の活動は、こうのとりのゆりかごin関西(7月9日カトリック新聞参照)、アジアカトリック医師会総会in京都、カトリック医療関連学生セミナー、研修会等です。今後も連携してどの活動も発展させていきたいと思っております。JCNAは、国際カトリック医療従事者協議会(CICIAMS)に加盟しております。先日、年1回の理事会も開催できないほど、深刻な財政難です、寄付・募金活動をお願いします、とメール連絡が入りました。私はこれまでに、会計報告を受けておりません。財政難の理由がなんであるかを調べて理解し、10月の総会で検討し、対処する予定です。

JCNAの各支部長や本部役員代行の方からの研修会案内、活動報告は、必要に応じて全支部長へメールで送っております。私は、今年はJCNAの幟旗が完成したので、それを活用している支部活動をしている様子の写真を送ってほしいな~と思っておりましたら、新潟支部から、通信短信に合わせ送られてきました。写真を見て皆様の笑顔が素晴らしく、真ん中のJCNAの幟旗のブルーも輝いていました。皆様にもお知らせしたく、次ページに続けて掲載します。ご覧ください。写真を送ってくださった、新潟支部長大瀧久江様に感謝します。

最後になりますが、皆様も安じていらっしゃるかと思います。7月に入ってから九州北部・秋田・北陸の豪雨による災害ニュースに驚くばかりです。被災された方々が一日も早く元の生活に戻れますようお祈り申し上げます。



新潟支部短信に合わせ、この写真も添付されてきました。皆さんの笑顔も旗も輝いています。皆10月御殿場でお会いしましょう。

大会準備担当 横浜支部長 井坂さん

書記・広報担当挨拶

書記・広報担当 山口 巖

日本カトリック看護協会のみなさま、はじめまして。

このたび、広報・書記を担当することになりました山口巖(いわお)と申します。J.C.N.A.東京支部に所属しております。千葉県在住の38歳です。現在は県内の某医療センターにて、集中治療室の看護師として働いております。新しく育っていく看護師たちの教育に携わりつつ、その難しさと感じる毎日です。集中治療室は普段から「死」に関わることの多い場所です。死について語らう文化の少ない我が国において、看護職から少しずつ、その死生観を深め共有していくことが重要であると考え、日々模索しております。また今後は、カトリック看護協会での学びも現場に生かし後輩たちに伝えていきたいと考えております。

私生活では、ふたりの男の子の教育に奮闘しながら、ランニングをしたり(今年はフルマラソンを目標にしています)、油絵(ほとんど落書きです)を描いたりしながら充実した毎日を過ごしております。

まだまだ未熟者ではございますが、みなさまにわかりやすいホームページ管理を心がけ、頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今を生きる

大阪支部顧問司祭 梅原 彰神父

私が大阪小学校に入った1952年頃、聖ヴィンセンシオ・パウロの創立になる愛徳姉妹会のシスター方が、大阪市内の聖母病院や聖家族の家で多くの子供たちの養護に関わっておられました。当時ハワイにある米軍部隊が狼犬部隊として毎年聖家族に援助の手を差し伸べていました。戦後の戦争孤児や親を失った子供たちの世話を積極的に助けていたのが

カトリック教会であり、シスター方でした。1953年当時のカトリック大阪教区長田口司教は大阪市にガラシア病院を建てられ、大阪聖ヨゼフ宣教修道会に委ねてスタートしました。経営難に陥ることもありましたが、後に箕面市に移転し、急性期病院として運営されていた時もありましたが、病院間の競争が激しく、今では緩和ケア病棟を3病棟のうち2病棟に増やして運営されています。私は大阪教区長安田大司教が、ガラシア病院の理事長の時から大阪教区が建てた病院なので、常務理事として関わり、池長大司教が大阪教区長に就任された時、「自分は病院の事情がよくわからないので、理事長を私に任命され15年ばかりその職責を果たしてきました。現在は前田大司教がガラシア病院の理事長を受け入れてくださり、私は顧問としてガラシア病院と関わっています。今年中には、病院更新の目途もたち職員一丸となって働いています。

ところで聖書を読むとイエスと病人との出会いのエピソードが多く登場します。高熱で苦しんでいるペトロの姑(内科)、重い皮膚病に侵された男(皮膚科)、中風者の回復(外科・整形外科)、百人隊長の部下の重病からの回復(総合診療科)、悪魔つきのいやし(精神科)、出血病の女(婦人科)、盲人の回復(眼科)等あらゆる病気の苦しみについて語られています。イエスは病人を癒して、神の国の到来を告げられました。病気で苦しんでいる人はいつの時代でもどの国でもいます。「何故私がこんな病気にならないのか、私は何も悪いことをしていないのに」という人がいます。キリスト教は病気それ自体は望ましいことだとは考えていません。神は病気を治してくださいませんか。又は何故病気をゆるされるのか、疑問に感じます。聖書に次のような話が語られています。ある日イエスは生まれつきの盲人が道端で物乞いをしているのを見た弟子たちが、イエスに尋ねた。「この人が生まれつき目が見えないのは誰が罪を犯したからですか、本人ですか、それとも両親ですか。」弟子たちは昔からの考えにとらわれていて、病気は誰かの罪に対する天罰だと思っていたのです。私が子供の頃ある障害を持っていた方に対して、ある人々はそのような考え方を聞いていたことがあります。イエスは「本人が罪を犯したのでもなければ、両親が罪を犯したわけでもない。神の業がこの人に現れるためである。」と答えられました。イエスはその人の目の病気を奇跡的にいやし、その結果盲人は見えるようになっただけでなく、心の目も開かれ、イエスを救い主として信じるようになりました。生まれながらの目の苦しみに対して、神の業がその人をいやし、その人の心の内に信仰を芽生えさせ生きる希望を与えたのです。彼は病気のおかげで、救い主イエスと出会い信仰者に生まれ変わらせていただいたのです。病気に関係して現れる神の業は一体なんでしょうか？それはまず病人に対する憐みと連帯意識が神の恵みによって、まわりの人々の心の内に生じることです。

医者は治療に最善をつくり、看護師も病人の世話をすることによって、病人に生きる希望を与えます。家族や友人は病人を見舞い慰めたり、励ましたりします。私たちは病人の苦しみや涙を目のあたりすると同情し、助け手を伸ばします。人の痛みは他者への愛の実践に駆り立てます。教会の歴史をみても病人のために奉仕した人々は空の星ほどいます。とくに現代の聖者となったマザーテレサは、何十年もインドの貧しい人や病者に愛の手を差し伸べ、ノーベル平和賞を受賞されました。マザーテレサはほほえみを絶やすことなく、病人や死にかけている人に愛情深く接しられたのです。私たちは看護師として日々病人に接し、もう一人のキリストに接するように真心から病人に奉仕しなければならないのです。そうして病人に希望と励ましを与えることです。

皆さんの活躍を祈ります。

支部活動 ★ 短信

《横浜》

支部長 井坂玲子

「7.8月の富士の夜景は登頂を目指す人々のヘッドライトが頂上まで蛇行した帯状に繋がっています。全国大会開催に向け、諸準備進行中です。多くのものをすそ野に抱く富士の自然と共にお待ちしています。集いがみ旨に適う実りあるものになりますよう祈りながら…」

《名古屋》

支部長 鈴木光恵

3月25日「司教様を囲んで語り合う会」を開催し、会員15名参加。松浦司教様は、会員ひとりひとりの思いをお聞きになられた上でお話しください、学びの多い会となりました。この会で、司教様の話を伺う中で、来年の名古屋大会のテーマも決まりました。6月10～11日は、聖霊病院の職員と初めて合同で黙想会に会員9名参加。「良き管理人として呼ばれて」というテーマで、顧問司祭の暮林神父様の指導で分かち合い信仰を見直すことができました。来年の名古屋大会は「共に生きる」というテーマです。いつも共にいてくださる神様とともに、カトリック看護師として、どのように生きていったらいいのでしょうか、基調講演で松浦司教様からじっくりお話をお聴きできると思います。毎月の例会で真剣に討論し、実りある大会になるよう祈りながら準備を進めてまいります。皆さんのお越しをお待ちしています。

* リーフレット…ご意見をお願いします。…



JCNAとは ▶▶▶ 1957年にカトリック司教団の認可を受けて発足。カトリックまたは、カトリックの精神に基づいたケアを目指す保健師・助産師・看護師・介護福祉士その他医療従事者によって組織されるカトリック看護職能団体です。(学生は準会員)

JCNAがめざすもの ▶▶▶ ・会員の霊的な成長
・専門職業人としての相互研鑽、親睦
・人々の協働と社会への貢献

- 毎月例会開催 第4火曜日 17:30～18:30 聖霊病院 アーノルト館第2会議室 (毎年12月にはクリスマス会、去年は福島へ復興ボランティアへ行きました)
- 控護視として、カトリックの行事にボランティア参加。
- 年1回 全国大会希望者のみ参加 (全国14支部あり、今年は横浜主催で井深八重(看護の原泉)に立ち戻って、御殿場高層で行われます。)
- 年会費 6000円(支部会費+本部会費)

詳しくはJCNAのホームページをご覧ください

名古屋支部について ▶▶▶ ホスピス聖霊勤務 鈴木光恵 msnyukimtsu@yahoo.co.jp (JCNA名古屋支部長)

《鹿児島》

支部長 松村精子

悲しいお知らせ)になります。2008年～20011年にJCNA鹿児島支部顧問司祭であった松森孝郎神父様が2017年6月2日84歳で、ご帰天なさいました。物静かな、なかに 芯のある指導はカトリックナースとはの問いかけでありました。会員一同感謝のうちにご冥福をお祈りいたしました。

《高松》

支部長 藤田美美緒

高松支部の顧問司祭が、4月からネルソン神父様に交代されてから初めての定例会を致しました。「疲れた者、重荷を負う者は、誰でも私のもとに来なさい、休ませてあげよう」のみ言葉についてそれぞれの思いを伝えあい、分かち合いの時を持ちました。

定例会は3人の小さな集まりです。支部としての主体的な活動は出来ず、教区から依頼されたことを(主に救護班活動)をおこなっていますが、マルチン病院と、OBナースにも働きかけて、これからの「高松支部のあり方」についてみんなで考える機会をてればいいな～と考えています。

《仙台》

支部長 古関 睦

AFCMAにて皆様のご協力により無事被災地からの写真展示をすることが出来ました。JCMA会員とカリタス南福島、被災地を視察(名古屋支部でスタッフの南原さんの案内)。クリスマスイブに神様の元に旅立った私達支部の大切な会員とJCMAの元支部長、会員の3名の為に合同追悼ミサを行いました。8月で東松島の響仮設住宅等の集会場が閉鎖し、皆様新天地に移住致します。今までのJCNA会員の皆様の援助に感謝！これからもカリタスがあるかぎりボランティアを続けて行きます。

《京都》

支部長 山本信子

京都支部は2名の退会の申し出がありました。例会を続けながらこれから先を考えていきます。御殿場の全国大会で皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

支部活動 ★ 短信

《福岡》

支部長 牧山幸二

2月「福音と平和の集い」、3月「司祭叙階式」がいずれも福岡カテドラルで行われ、教区から救護の要請があり、カトリック医師会との合同チームで2名の会員が参加。5月は長崎・福岡・広島・大分合同の黙想会に、福岡から3名が参加。3月と5月に例会を行った。

《大阪》

支部長 川口百合子

6月17日、名古屋の聖霊会で修道会の超高齢化の現状と課題に関するシンポジウムが行われました。高齢となられたシスター一方が使徒的奉仕を全うするための支援として、何か私達にできることはないかと考えています。姫路聖マリア病院 老人看護専門看護師 得居みのり

《長崎》

支部長 石岡ヒロ子

支部総会&五島僻地教会巡礼
ご復活第2週慈しみの主日4/22・23に長崎支部は、五島で14名が参加し支部総会&僻地教会巡礼を行いました。キリシタン迫害の時代に主に長崎外海地方から五島の僻地に信仰のため移り住んだ人々の子孫が、明治時代に建てた教会堂の巡礼です。道路も不便な時代、船が足であり、多くの教会は海岸の側に建てられています。今回、嵯峨の島等8つの教会を巡礼。五島の町全体が過疎化となり教会堂に出入りする信徒達も減少していますが、五島のキラキラ輝く青い・碧い海と空、新緑の山々と茶畑そして、信仰の町・五島グループ会員の細やかで暖かい配慮の中で笑いも溢れ心身に共に充実した恵みの時を頂きました。いつか全国の皆様も五島巡礼にお誘いしたいと切に思います。

《新潟》

支部長 大瀧久江

7月9日米沢の「北山原殉教祭」に救護担当としてカトナース4名で参加しました。当日は気温30度の猛暑の中、100名以上の新潟教区山形地区の信徒が集まり、菊地司教司式のもと4名の方々の堅信式も執り行われました。

《広島》

支部長 山口郁乃

今回の大きな報告は、顧問司祭交代です。長年お世話になった下関労働教育センターの林尚志神父様から岡山県笠岡教会の山口道晴主任司祭にバトンタッチです。築いてきたものの上に新しいものを。関門プロジェクトへの協力、そして司教様も交えて広島教区医師とコメディカルのつどいを主催します。幟旗の使いぞめは、津和野の乙女峠祭りでした。

《札幌》

支部長代行 児玉弘美

5月27日に行われた支部総会で、今年度の活動計画が発表されました。新会員の勧誘を積極的に図りながら、よく祈り、定期的な勉強会とミサ、黙想会などでもっと信仰を強めて行きたいと考えています。

《大分》

支部長 阿南幸子

5月20、21日 第15回合同黙想会を開催、15名の少人数参加でしたがオプスディの小寺神父様より「復活を生きる」をテーマに信仰の原点を学びました。5月14日カト看旗、初登場でルルド祭、7月2日岐部祭で救護活動をしました。

《東京》

支部長 西村晶子

6月24日研修会を開催しました。参加者は、13名+神父様、計14名でした。神父様の講話のテーマは、「様々な手」です。全体のテーマは、私たちひとり一人の「ミッション・パッション・アクション」について、2つのグループに分かれ、分かち合いました。久しぶりの支部企画の勉強会は楽しかったというご意見です。今年度の会員数は39名です。

7月29日支部総会予定。役員選挙も予定しております。JCNAの幟旗も活用し、会員の積極的募集に役立てたい。

2017年 第33回日本カトリック医療関連学生セミナーのご案内

- ◆日 時：2017年9月23日(土) 午前10:00～9月24日(日)正午
 - ◆会 場：上智大学 目白聖母キャンパス(東京都新宿区下落合4-16-11)
 - ◆テ ー マ：“ 召命(calling)～なぜあなたはこの道に？～”
 - ◆対 象：カトリックと医療に関心のある学生(社会人の方も参加可能です)
 - ◆参 加 費：高校生1,500円、学生3,000円、青年社会人(35歳以下)6,000円、社会人12,000円
 - ◆懇親会費：社会人3,000円、学生・高校生は無料
- 詳細はホームページ参照

JCNA会員の声

JCNA入会に寄せて

東京支部 高橋清美

はじめまして、こんにちは。世田谷の病院で、主に小児医療に従事しております。本会には2016年12月に入会させて頂きました。同年春のご復活で受洗してから、仕事の上でも信仰と離れずやっていきたいと思っておりましたので、JCNAの存在を知った時には迷わず入会を申し込みました。受洗のきっかけは、長男が若くして帰天したことです。息子の導きで信仰を得て、新たな命を頂きました。それまでも看護の仕事に誇りを持ってやってきたつもりでしたが、年齢や経験と共に慢心なども生じていたのではと思います。しかし、一度“死んだ”ような経験を通して、何も持たず何も出来ない小さな自分に戻されました。今は、働けること・働く場が与えられていることだけでもありがたく、まして、不自由なく動く身体があり「この手足をどうか使ってください」と十字を切れることに感謝しかありません。患者さんとそのご家族に対する一言、眼差し、心の持ちようが、主の御心に適うものでありますようにと日々祈りつつ、また至らなさを痛感しつつ働いております。このような気持ちや実践をJCNAの方と分かち合い、そして新たな教えを頂けたらと期待しております。本会に貢献できることは微々たるものと思いますが、これからもどうぞよろしく願いいたします。

本部役員会からの報告

10月の総会で検討予定の課題のいくつかと、その他をお知らせいたします。

- 1、JCNA会員証……やっぱりほしい、あった方がいいの意見があります。
- 2、CICIAMS、財政困難のため、寄付・募金活動の要請があります。
- 3、カトリック新聞の広告掲載について決定したい。(例:新年あいさつ・病者の塗油・平和等)
- 4、支部+グループの在り方を検討する。(グループについて規約にはない……)
- 5、ホームページの管理・費用につて、ツイッターの継続をどうするか?等
- 6、各支部に、HIV/AIDS、パストラルケア、平和への希求担当者を決めて活動したい。
- 7、幟旗活用の活動報告を出し合う。会員募集に生かすこともいいね。今後の課題です。
- 8、《スピリチュアルケア1日研修会》より添う心(2017年 3回終了)
4回 9月30日(土)岐部ホール305号(東京都千代田区麴町6-5-1) 5回 11月18日(土)ニコラバレ105号
講師 ウアルデマール・キップス師 時間 9時30分から17時 申込・問い合わせ
Fax 03-3666-1763 TEL 090-3534-7695

編集後記

通信22号が予定通り発行されました。皆様のご協力に感謝いたします。10月27・28日は、第58回日本カトリック看護協会全国大会in御殿場でお会いしましょう。JCNAの幟旗に迎えられて皆様とお会いできることを楽しみにしております。雄大な富士山見える宿で、JCNAの明日を語り合いましょ。お元気で。

後記担当 西村晶子

JCNA通信第22号 2017、8、20発行

- ☆ 会長 西村晶子
- ☆ 副会長 山口郁乃
- ☆ 書記・広報 山口 巖
- ☆ 会計 石原貴子
- ☆ 広報メール jcna-honbu@outlook.com
- ☆ ホームページ <http://www.jcna/info>
- ☆ ツイッター https://twitter.com/jcna_honbu
- ☆ 本部事務局 西村晶子
〒東京都練馬区豊玉南1-1-10-106
TEL/FAX 03-3557-3812
メール snishimura12252000@gmail.com
- ☆ 本部顧問司祭 飯野雅彦(カトリック磯子教会)







